



黄綬褒章受章者 神谷正巳氏 (60歳)

主な略歴

- 昭和37年4月 トヨタ車体株式会社入社
- 昭和42年11月 国家技能検定 工場板金2級取得
- 昭和61年12月 複合技能士取得
- 平成8年5月 国家技能検定 検定委員
- 平成11年11月 愛知県知事表彰「優秀技能者表彰」
- 平成17年11月 厚生労働大臣表彰「現代の名工」
- 平成18年12月 テレビ番組「ガイアの夜明け」年末報道スペシャルで団塊世代の職人として紹介される。

受章の感想

今回の褒章受章は、嬉しさと重いプレッシャーを感じています。と言つのも「黄綬褒章は業務に精通し衆民の模範である者に授与される」ということで、私がこの受章に値する者であったのか？他にもっと相応しい方々がおられたのでは？と思ひ過分なる評価に驚き、今後に技術を伝える責任の重さを

どの精神的なプレッシャーを感じています。
天皇陛下の拝謁では、陛下が豊明殿内に入られる前に「まもなく陛下がご入場なされます」との案内で一瞬に式場は静まり緊張感がみなぎり、陛下を間近に拝謁して受章の重みが一層増して感じられました。

仕事と受章のきっかけ

「現代の名工」受賞により今回の褒章受章に至った訳ですが、そのきっかけは自動車ボデー外板の面品質（欠陥）を手で触れて検出する技能に優れていることでした。私がこの面品質への意識に目覚めたことと面評価技能を身につけたことは、品質向上活動の一環として、車づくりを直接担当する現場のメンバーが販売店（ディーラー）を訪問し、お客様の声を知り、自分達の仕事（改善）に活かす活動の中で、強いお叱りを受けたことがきっかけで面品質向上改善に取り組み（…この取組では大失敗もしました。これは苦い経験でした！）そして苦勞の末、面評価技能の腕も向上し、お客様に満足していただけの品質の向上にもなったことが一番記憶に残る仕事で誇

れる活動であったと言えます。ここで身に付けた腕（技）が「現代の名工」表彰につながり、今回の褒章受章のルーツとなっています。

これからの人生

テレビ番組「ガイアの夜明け」でも紹介されたように、今話題の「団塊世代」の一人ですが、定年を迎えた今でも、囑託として会社でこれまで培ってきた技を若い人たちに教えています。
今までは仕事にガムシヤラに突っ走ってきましたが、これからは少しアクセルをゆるめて時間と心にゆとりを持ち、高齢化社会にも耐えられる新たな趣味と体力づくりや地域への貢献など、生活の幅を広げていきたいと考えています。

若い人へ

私が今まで仕事を通じ学びえた取り組み姿勢と考え方ですが、何事も失敗を恐れずやってみる。
「まずは自分でやるーやれば何かが見えてくるーやれたら自信が付いてくるー」
その経験が自信と誇りにつながり新たな意欲が湧いてくるので何事も自らの意思を持って挑戦してほしいと思います。